

支えてくださるすべての方へ、 感謝の気持ちを忘れずに

株式会社ダイコク 取締役 中澤しづ江氏

地域に根ざし、地元密着型企业として真摯に家づくりに取り組んできた株式会社ダイコク。昭和38(1963)年の創業から50余年、初代代表・中澤國二氏の想いを受け継ぎつつ、二代目の中澤善智代表を中心にさらなる進化を遂げている。今回は長年初代に連れ添い、現在は取締役として会社を支える中澤しづ江さんを訪ねた。



■67歳にして突然訪れた、夫との早過ぎる別れ

これまでの弊社の歩みを改めて振り返りますと、業界の不況や世の中全体の不景気などに翻弄された時期ももちろんありましたが、経営上最大の試練は夫が事故により68歳で急逝してしまったことだったと思います。地域の皆さまからも社員からも絶大な信頼を得ていた代表を突然失い、皆が大変大きなショックを受けました。



■不運や不幸は自身の捉え方次第で変わるもの

当時、現代表を務める次男が帰郷していたものの、事業継承については何も定まっておりました。私個人としても夫を失った寂しさと不安から、連日ふさぎ込んでおりました。そんな時、私たちを支えてくださったのが古くからの地元のお客様でした。くわえて社員も「初代の志を貫こう」という心意気で頑張ってくれたのです。夫との別れは悲しい出来事でしたが、お客様の温かさに触れ、社員と共通の想いを再確認できたことは貴重な収穫でした。不運や不幸は誰にでも訪れるものですが、だからこそ苦しい状況でも物事の捉え方を思い切って変え、良い側面を発見する努力をし、それらを前進する力に変えて行くことが大切なのだと感じました。



「人生はアドベンチャーよ」と、笑顔で語る中澤さん。80代となった今もなお喜々として新たな世界に飛び込んで行く姿に、パワーをもらう人は少なくはない。ただし、何時も仕事のことが頭を離れることはなく、旅先でも建築物や町並みを眺めでは発見を得ているのだとか。

■想いを継承しつつ謙虚な姿勢で進化を目指す

こうして多くの方にお力添えをいただき、初代がいかに創業の地である篠ノ井の町を深く愛し、住民の皆さまや地元企業さま、そして社員との結び付きを重視してきたのかを実感することができました。また、弊社は常に「家づくりを通じて地域に存在感を示せる企業でありたい」と、最善を尽くしてきましたが、その評価はあくまでもお客様が下すものなのだと改めて認識致しました。だからこそ責任と誇りを持って使命を果たすことはもちろん、「信頼と期待に応えるためにやるべきことは？」と、厳しく自問し答えを出し続けねばならないと思います。そのために重要なのは、謙虚に学び続けることと独自の技術やアイデアを備えることだと思っています。



■人との結び付きは最も尊い財産である！

私が実体験から学び、常に心に留めていることはいくつかありますが、中でも最も大切にすべき財産は人や人との結び付きだと思います。お客様、社員、家族、友人がいてくれたからこそ、弊社も私もここまでやって来られました。ですから、今後も感謝の気持ちと人を信じる心を大切に、日々を過ごして行きたいと思っています。

中澤しづ江氏(なかざわしづえ)
株式会社ダイコク 取締役

長野市松代町出身。高校卒業後、酒問屋に就職。26歳で結婚し、2男1女を育てる。40歳で起業(国友うるし工芸店)を経験するなど、チャレンジ精神旺盛な性格と自己分析する。

